



研修最終日。今後の活動のアクションプランを作成中。皆の真剣な姿に注目ください。

## JICA 大洋州 NCDs 広域在外研修

青年海外協力隊 2018 年度 1 次隊 派遣国：トンガ王国 伊藤有未（三郷市）

2019 年 2 月 19 日から 3 日間、フィジー共和国の首都スバにおいて、JICA 大洋州 NCDs(糖尿病などの非感染性疾患)広域在外研修が開催されました。参加者は、NCDs 対策にあたる JICA ボランティアとそのカウンターパート(以下 C/P)、大洋州 10 カ国から総勢 36 名が集結。各国の事例と予防への取り組みを紹介する他、NCDs 対策注力機関の訪問。最終日には隊員の実例によるケー

スタディをした後、各々が今後の活動プランを考え、活動宣言として参加者全体に公表するといった内容でした。

今回の収穫は、草の根での啓発活動の重要性を再認識する他、主幹機能を担う首都の農業省に対して、国策として何か改善に向けて動いてもらうよう、働きか



3 日間の研修を終え、チームトンガで撮影した 1 枚。

けることも大切なアクションであることに気づいたことです。バヌアツでは教育省と保健省がタッグを組み、トップダウン方式で食事改善に向けた取り組みがなされているそうです。いざ現地の人たちを動かすには、やはり省庁の発言力や政策が必要なのか。私の新たなチャレンジとして、草の根レベルの呼びかけは勿論、国の主幹機関に対しても NCDs 予防の大切さを伝えていきたいです。

各国の事例を聞いて、固定概念の恐ろしさも痛感しました。大洋州 = イモ主食と勝手に認識していましたが、土壌不能や人口過密による土地不足から、米主食が主流となる国が存在することが分かりました。つまり、米文化でも肥満のリスクを抱えている。イモ文化 = 太りやすいそんなイメージを持っている方も多いかと思います。しかし、結局は栄養不足、一度の食事の多量摂取、間食等の食習慣や運動不足、アルコールや喫煙と複合的要因が絡み合っています。

任期中の私の目標は、「誰かのきっかけになる」。成人の 7 割以上が NCDs に罹患あるいは予備軍とされるトンガで、いかに NCDs に直面している当事者意識を持たせるか。当研修で得た他国隊員の活動を参考に、気持ち新たに、配属先スタッフと共に、身近で楽しいと思える予防・改善策を探っていきます。



研修初日、各国の事例紹介で発表する C/P と私。2 人ともトンガの伝統服を纏っています。